

市内企業を対象とした北陸新幹線に関するアンケート調査結果の概要

1 調査目的

市内企業を対象に、出張における北陸新幹線の利用状況やダイヤの改善要望等を把握するためのアンケート調査を実施して、課題を整理し、今後必要な取組を検討する上での基礎資料とするもの。

2 調査概要

調査対象：市内企業 3,899社
 内訳：上越商工会議所会員企業 2,058社
 13区商工会会員企業 1,835社
 未加入の市内主要企業 6社

調査方法：郵送法（記名式）※会報誌（紙）と併せて発送を依頼

調査期間：【上越商工会議所】平成30年5月28日（月）～8月31日（金）
 【13区商工会】平成30年8月1日（水）～8月31日（金）

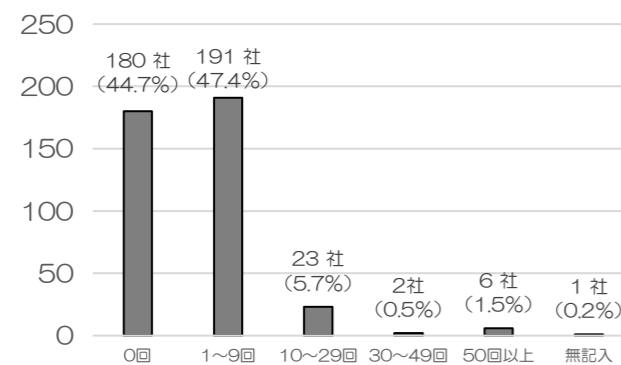
3 回収結果

回答数：403社（回答率：10.3%）
 （内訳：上越商工会議所 209社、13区商工会 191社、未加入の市内主要企業 3社）

4 調査結果

※構成比については、小数点以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とならない

(1) 出張の実態（1か月に出張等の社用で県外へ行く回数）（n=403）

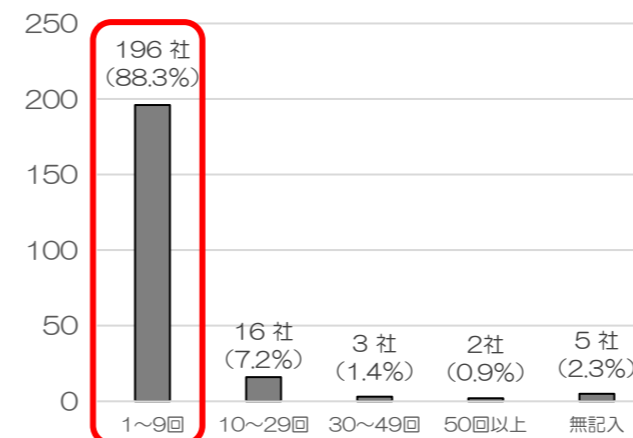


従業員数	出張回数	5人以下	6~10人	11~20人	21~51人	51~100人	101人以上	無記入	合計
0回		91	37	19	15	2	4	12	180
1~9回		33	35	34	33	23	18	15	191
10~29回		0	2	0	9	4	8	0	23
30~49回							2		2
50回以上						1	5		6
無記入		1							1
合計		125	74	53	57	30	37	27	403

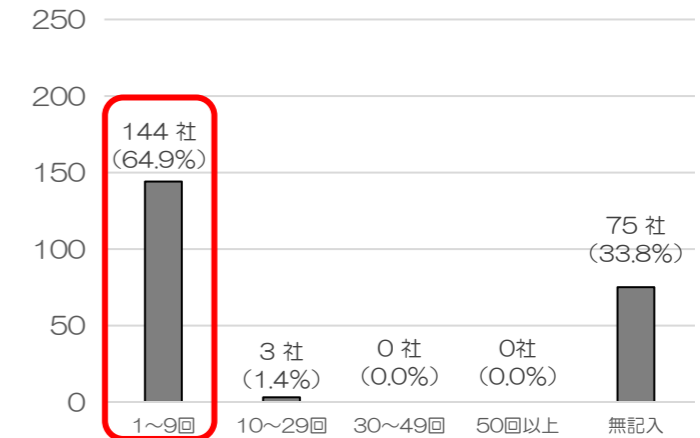
- 出張等の社用で県外へ行く回数について、1か月当たりの平均回数を尋ねたところ、0回との回答が180社、月1回以上出張があると回答したのは222社あり、約半数の企業が1か月に1回は出張等で県外へ行っている結果となった。
- 出張回数ごとに従業員数を確認したところ、0回と回答した企業180社のうち、従業員が5人以下と回答した企業は91社あり、約半数を占めた。一方、月50回以上と回答した企業6社のうち、従業員数51~100人と回答した企業が1社、101人以上と回答した企業が5社あり、全て規模の大きい会社であった。
- 1か月当たり1回以上県外へ出張があると回答した222社の所在地を確認したところ、合併前上越市に所在する企業が127社（57.2%）、13区に所在する企業が65社（29.3%）、不明が30社（13.5%）あり、合併前上越市に所在する企業が半数以上を占めた。

(2) 出張における北陸新幹線の利用実態（n=222）

《東京方面》



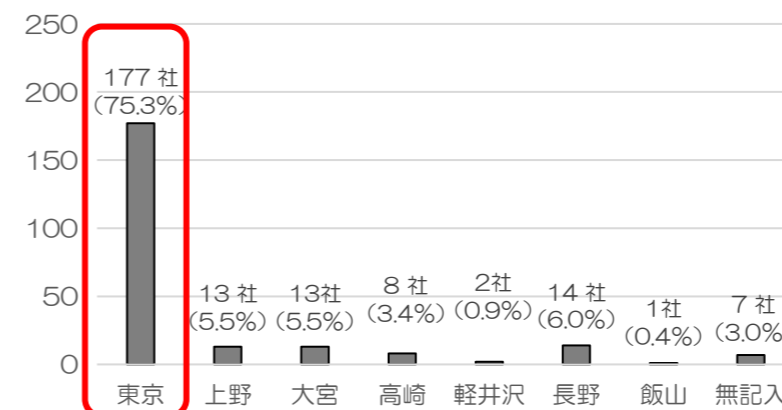
《金沢方面》



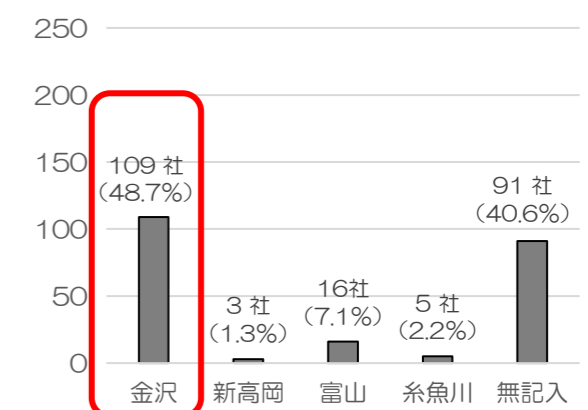
- 県外へ出張が1か月に1回以上あると回答した企業222社に、北陸新幹線を利用する回数を方面別に尋ねたところ、東京方面では月1~9回が196社、月10~29回が16社、月30~49回が3社、月50回以上が2社、無記入が5社であった。一方、金沢方面では月1~9回が144社、月10~29回が3社、無記入が75社であった。
- 方面別の利用割合について、無記入を除くと東京方面へは217社、金沢方面へは147社の利用があり、約6:4の割合で東京方面への利用が多かったことから、平成29年度に実施した「新幹線乗降客を対象としたアンケート調査」で判明した、首都圏と出張（ビジネス）での交流が多いことを裏付ける結果となった。
- 上越新幹線の利用も可能な東京方面において、北陸新幹線を利用している企業の所在地を確認すると、合併前上越市に所在する企業が126社（58.1%）、13区に所在する企業が63社（29.0%）、不明が28社（12.9%）であった。13区の内訳では、頸城区に所在する企業の利用が14社と最も多く、駅が近い頸南ブロックの区に所在する企業の利用が多いと予想していたが、東頸や頸北ブロックの区に所在する企業の利用も見られ、企業の所在地に大きな偏りがないことがわかった。

(3) 方面別の最多利用降車駅

《東京方面》（n=235）※複数回答13を含む



《金沢方面》（n=224）※複数回答2を含む



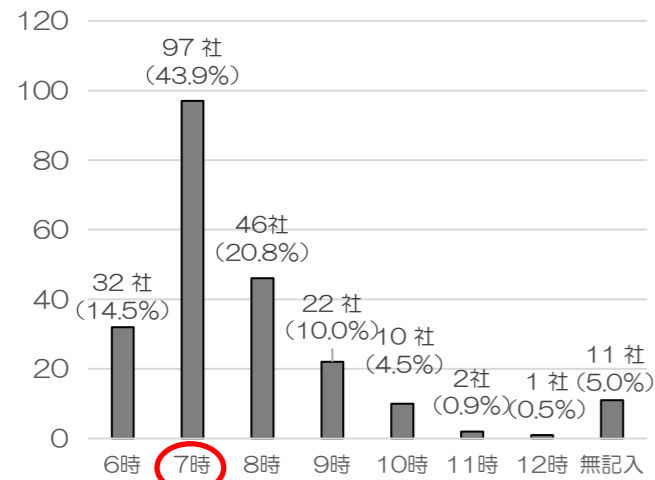
- 最も多く利用する降車駅を方面別に尋ねたところ、東京方面では全体の約75%の企業が東京駅で降車すると回答し、次いで多かったのは長野駅だったことから、ここでも平成29年度に実施したアンケート調査を裏付けるように、東京や長野へ出張（ビジネス）利用が多い結果となった。一方、金沢方面では金沢駅の利用が約半数を占めた。

市内企業を対象とした北陸新幹線に関するアンケート調査結果の概要

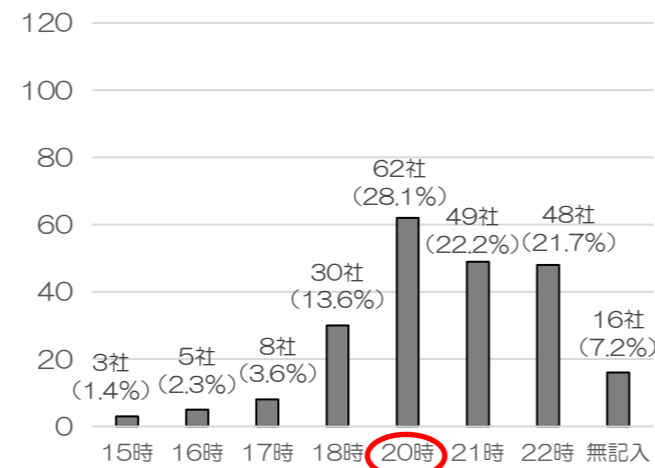
(4) 日帰りにおける最多利用列車の時間帯（方面別）

《東京方面》（n=221）※出張で東京方面への利用実態があると回答した217社（複数回答4を含む）

a 上越妙高駅を出発する列車の時間帯



b 上越妙高駅へ到着する列車の時間帯

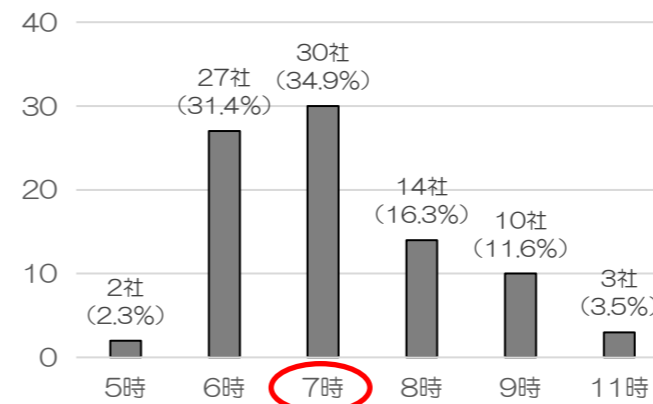


(5) 北陸新幹線を利用する上で増便を希望する時間帯

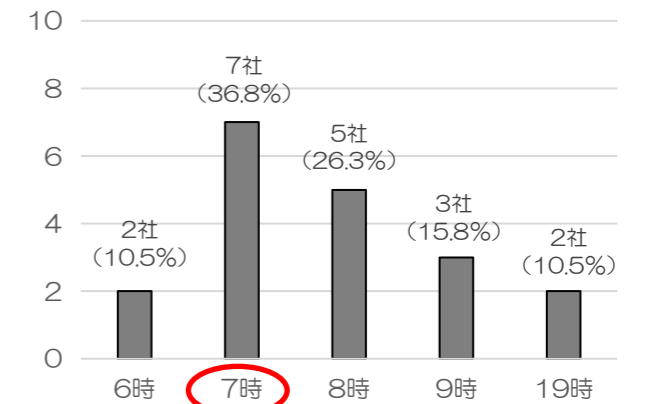
※県外への出張があると回答した企業222社に、増便を希望する時間帯について方面別に尋ね、2社以上から要望があった時間帯を抜粋し、グラフで表した。

a 上越妙高駅発の便

《東京方面》（n=86）

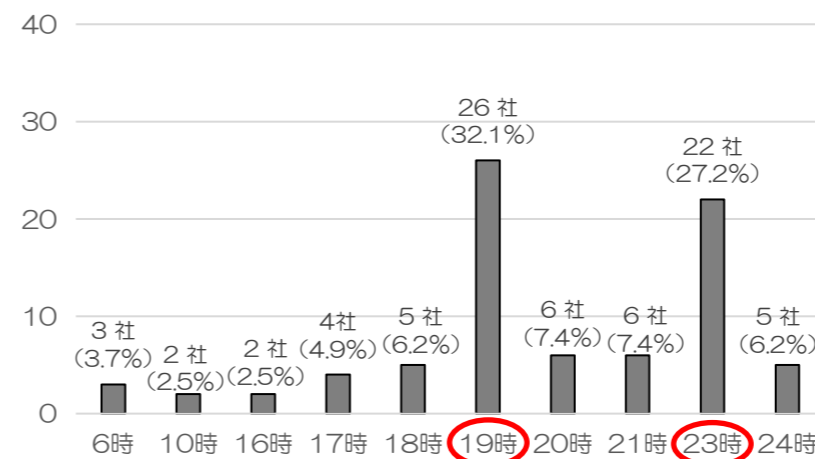


《金沢方面》（n=19）

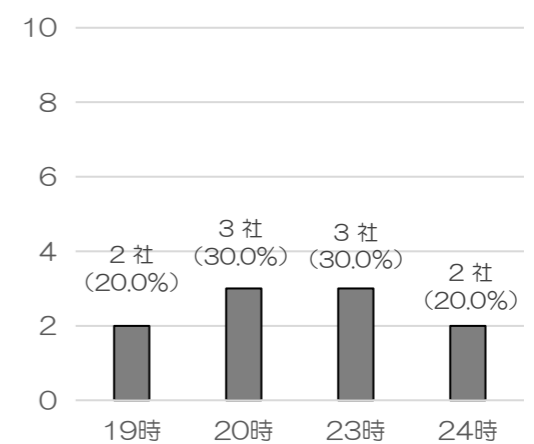


b 上越妙高駅着の便

《東京方面》（n=81）

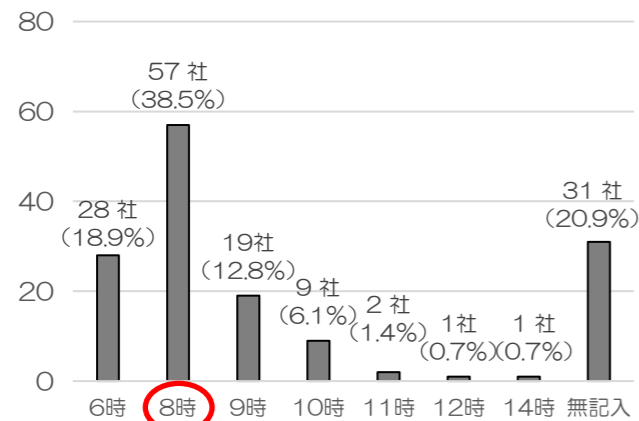


《金沢方面》（n=10）

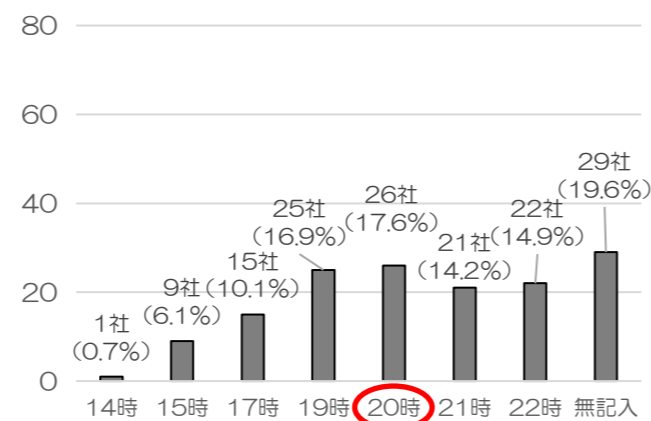


《金沢方面》（n=148）※出張で金沢方面への利用実態があると回答した147社（複数回答1を含む）

a 上越妙高駅を出発する列車の時間帯



b 上越妙高駅へ到着する列車の時間帯



- 北陸新幹線を出張で利用する企業に最も多く利用する発着時間帯について方面別に尋ねたところ、東京方面では、上越妙高駅を7時17分に出発し、東京駅に9時20分に到着する直通の一番列車「はくたか552号」が最も多く利用されていることがわかった。また、上越妙高駅を6時36分に出発し、長野駅へ7時に到着する朝の臨時列車の利用も一定数みられることから、利用者の利便性向上に寄与しているものと考えられる。上越妙高駅到着の時間帯では、東京駅を18時4分に出発し、上越妙高駅に20時14分に到着する「はくたか573号」の利用が最も多かったが、21時や22時台に到着する「はくたか」と大差がなかった。
- 金沢方面では、上越妙高駅を8時31分に出発し、金沢駅に9時35分に到着する二番列車「はくたか551号」が多く利用されていた。上越妙高駅到着の時間帯では、金沢駅を19時2分に出発し、上越妙高駅に20時5分に到着する「はくたか576号」の利用が最も多い結果となったが、19時や21時～22時台に到着する「はくたか」と大差がなかった。
- 日帰り出張における全体的な傾向として、7時～8時の間に上越妙高駅を出発し、18時～19時頃に出張先での用務を終えて最寄りの新幹線停車駅から乗車し、20時台をピークに19時～22時台に上越妙高駅に到着していることが見てとれる。方面別の平均滞在時間を算出したところ、東京方面が8.7時間、金沢方面が9.5時間という結果であった。

- 上越妙高駅発で増便を希望する時間帯は、東京方面、金沢方面ともに朝の時間帯（6時～9時）がほとんどであった。東京方面では、7時台に増便を望む企業が最も多かったが、これは上越妙高駅を7時38分に出発する臨時列車が平成30年3月に廃止されたことに伴い、上越妙高駅を7時17分に出発する東京方面への一番列車の利用客が増え、車内が混雑していると感じ、増便を希望したものと推測される。また、金沢方面においても、7時台に増便を希望する企業が最も多かったが、これは7時台に上越妙高駅を出発する列車がないため、増便を望む企業が多かったものと考えられる。
- 一方、上越妙高駅着で増便を希望する時間帯については、東京方面は19時台と23時台に到着する列車がないため、増便を望む企業が多かったものと推測される。金沢方面では、19時以降に到着する列車の増便を望む声が多かった。

市内企業を対象とした北陸新幹線に関するアンケート調査結果の概要

(6) 上越妙高駅との利便性向上を希望する北陸新幹線の停車駅

※県外への出張があると回答した企業 222 社に、上越妙高駅との利便性向上を希望する北陸新幹線の停車駅について方面別に尋ね、2 社以上から要望があった駅を抜粋した。

《東京方面》 (n=15)

駅名	企業数
大宮駅	3
熊谷駅	2
軽井沢駅	2
長野駅	8

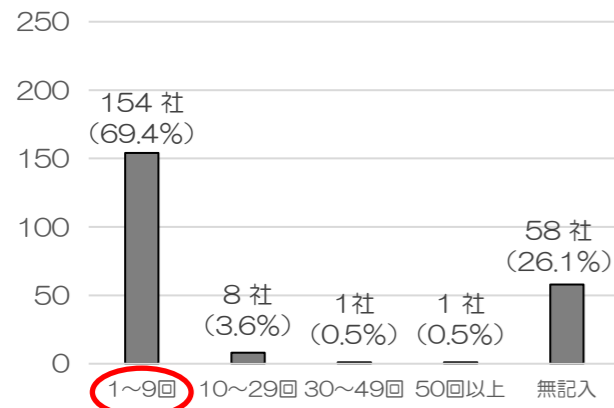
《金沢方面》 (n=3)

駅名	企業数
金沢駅	3

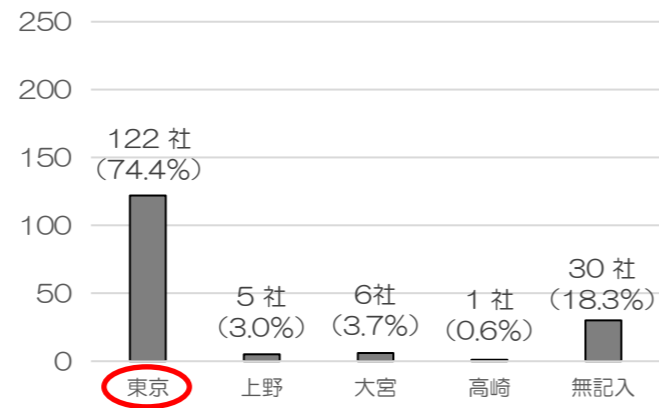
- 上越妙高駅との利便性向上を希望する北陸新幹線の停車駅では、東京方面では長野駅が最も多く、金沢方面では金沢駅が最も多かった。

(7) 出張における上越新幹線の利用実態

a 利用回数 (n=222)



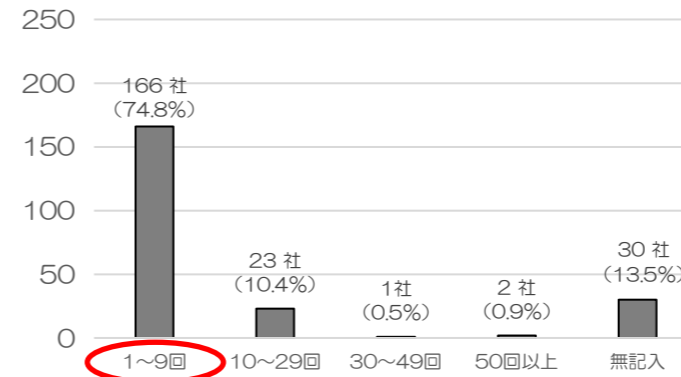
b 最多利用の降車駅 (n=164)



- 県外への出張があると回答した企業 222 社に、上越新幹線の利用回数を尋ねたところ、北陸新幹線の利用実態（東京方面）と同様に月 1~9 回との回答が最も多かった。無記入の 58 社を除くと、上越新幹線よりも北陸新幹線の利用の方が約 25%多い結果となった。
- 無記入を除く 164 社に最も多く利用する降車駅について尋ねたところ、東京駅が最も多かった。また、この 164 社の企業の所在地を確認したところ、合併前上越市に所在する企業が 92 社 (56.1%)、13 区に所在する企業が 54 社 (32.9%)、不明が 18 社 (11.0%) であった。13 区の企業の内訳を確認したところ、頸城区を含めた頸北ブロックに所在する企業が半数以上を占めていた。頸北ブロックの企業は、北陸新幹線の利用も一定数あったことから、各新幹線で停車駅が異なるため、出張先によって利用する新幹線を使い分けられているものと考えられる。
- 合併前上越市においては、高田区や春日区に所在する企業の利用が多く、また 13 区では、板倉区や清里区に所在する企業の利用も見受けられたため、上越新幹線は北陸新幹線よりも料金が安価であることや、とき（新潟ー東京間）、たにがわ（越後湯沢ー東京間）と 2 種類の新幹線が運行されており、越後湯沢駅発着の列車が約 30 分に 1 本あることから、出張先への到着時間や出張先からの帰社時間に合わせて上越新幹線を選択しているものと推測される。

(8) 出張における社用車の利用実態

a 利用回数 (n=222)



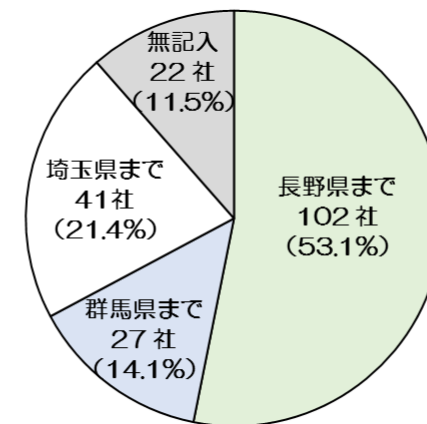
- 出張時の社用車の利用実態についても尋ねたところ、1~9 回と回答する企業が最も多く、全体の約 75%を占める結果となった。
- 無記入を除く 192 社の従業員数を確認したところ、社用車の利用に企業の規模は関係していないことが見てとれた。

b 利用回数と従業員数の相関 (n=192)

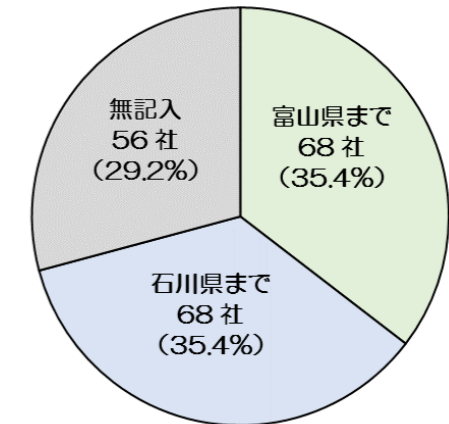
従業員数	5人以下	6~10人	11~20人	21~51人	51~100人	101人以上	無記入	合計
1~9回	23	24	27	31	21	26	14	166
10~29回		8	2	6	4	3		23
30~49回				1				1
50回以上					1	1		2
合計	23	32	29	38	26	30	14	192

c 社用車で出張する際の利用範囲 (n=192)

《東京方面》



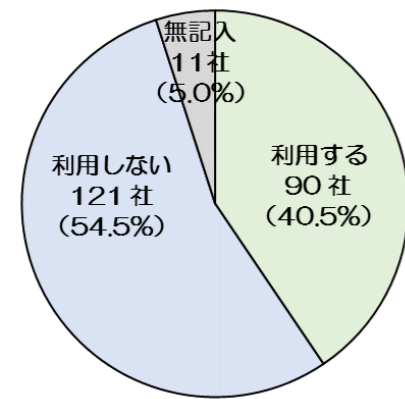
《金沢方面》



- 無記入を除く 192 社に社用車で出張する際の移動範囲について方面別に尋ねたところ、東京方面では長野県までと回答した企業が 102 社 (53.1%) と最も多く、約半数を占めた。また、金沢方面では富山県、石川県と回答した企業が同数であった。
- 出張先が新幹線停車駅の最寄りにない場合や荷物（自社製品等）を持って出張先へ行く場合、また出張人数が多い場合など、社用車を利用せざるを得ない状況があると考えられる。

市内企業を対象とした北陸新幹線に関するアンケート調査結果の概要

(9) 出張における在来線の利用実態 (n=222)



【新幹線との乗り換えで不便と感じる点 (自由記述)】
 ※222社のうち93社から在来線に関して意見を聞くことができ、新幹線との乗り換えについて意見があったものを抜粋して掲載。()は回答企業数。

- ・乗り換えに要する待ち時間が長い。(48社)
- ・車で行く方が便利。(19社)
- ・荷物がある場合、新幹線ホームまでの移動が大変。(14社)

- ・新幹線の乗車駅まで在来線(えちごトキめき鉄道、北越急行)を利用するか尋ねたところ、利用すると回答した企業が90社(40.5%)、利用しないと回答した企業が121社(54.5%)あり、利用しないと回答した企業の方が多かった。上越妙高駅へは、車や送迎で行く場合が多いことが考えられる。また、新幹線との乗り換えで不便だと感じる点として、乗り換えの待ち時間が長いという声が全体の約半数を占め、圧倒的に多かった。

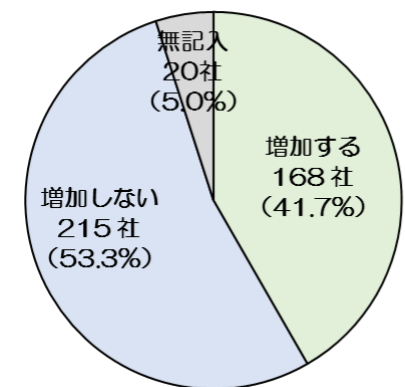
(10) 北陸新幹線での通勤実態 (n=403)

企業名	利用駅	人数
企業A	長野駅	1人
企業B	糸魚川駅	1人
企業C	東京駅、※金沢駅または富山駅	2人

(※金沢方面からの通勤者は1人だが、利用駅については複数回答があったもの。)

- ・回答があった403社に北陸新幹線を利用した通勤実態を尋ねたところ、通勤者がいると回答したのは3社であった。

(11) 今後の北陸新幹線の利用見込み (n=403)



- ・回答があった403社に、今後、北陸新幹線が福井県敦賀市まで延伸開業した場合、北陸新幹線を利用して北陸方面へ向かう機会が増加するかどうか尋ねたところ、増加すると回答したのは168社(41.7%)、増加しないと回答したのは215社(53.3%)であり、増加しないと回答した企業が半数以上を占めた。

5 調査考察

- 今回調査対象とした市内企業のうち、出張等の社用で県外へ行く場合、北陸新幹線、社用車、上越新幹線の順で利用されていることが確認でき、出張で北陸新幹線を利用する企業が多いことが把握できた。
- 東京方面へは約98%の企業が1か月に1回は北陸新幹線を利用している一方で、金沢方面へは利用はあるものの東京方面と比べて少ない状況にあり、北陸方面とのビジネスでのつながりが弱いことが確認された。
- 東京方面、金沢方面ともに、日帰り出張の際は朝の7時~8時台に上越妙高駅を出発し、18時~19時台に出張先での用務を終えて新幹線に乗り、19時~22時台に上越妙高駅に到着するという全体的な傾向が見てとれた。
- 北陸新幹線を利用する上で、増便を希望する時間帯の多くが上越妙高駅に発着しない時間帯だったことから、企業の利便性を考慮すると、最低でも1時間に1本は新幹線の停車を希望しているものと思われる。
- 新幹線駅までの在来線利用については、接続時間が長いことを理由に在来線を利用しない企業が多かった。接続時間については、開業当初よりも改善されているが、開業当初の固定観念にとらわれ、利用しない企業もあるものと推測される。また、上越妙高駅周辺には、市営駐車場のほか民間駐車場も相当数整備され、駐車台数が十分あることから、車を選択する企業も多いものと考えられる。
- 北陸新幹線を利用した通勤者がいると回答した企業は3社であった。
- 福井県敦賀市までの延伸開業後の北陸新幹線の利用見込みについては、41.7%の企業が増加すると回答した一方、増加しないと回答した企業が半数以上であった。